

## 現行の学力向上に係る数値目標について

平成29年3月改訂『大阪市教育振興基本計画』（全市の目標・成果指標）

全国学力学習状況調査の結果を中心に5つの成果指標を設定



各学校の「運営に関する計画」にかかる目標の達成が、全市の2つの最重要目標の達成に寄与するように、同様の指標を活用

### 運営に関する計画の全市共通目標（平成29年度～）

- ・小学校経年調査（中学校チャレンジテスト）における標準化得点を前年度より向上させる。
- ・小学校経年調査における市平均の7割に満たない児童を同一の母集団で比較し、いずれの学年も前年度よりポイント減少させる。
- ・小学校学力経年調査における市平均を2割以上上回る児童を同一の母集団で比較し、いずれの学年も前年度よりポイント増加させる。

各学校で必ず設定。 については、各学校でその実態に応じた数値を設定

### 各学校の数値目標の考え方

- ・目標設定は、これまで各学校に任されていたが、二つの最重要目標については、全小中学校で同じ目標・指標で取り組ませるため、教育委員会が定める学校運営に関する指針において、全市共通目標を設定。
- ・各学校の取組みによる児童（生徒）の学力の伸びを評価するため、経年比較ができない全国学力・学習状況調査ではなく、小学校では学力経年調査、中学校では大阪府が実施するチャレンジテストを評価指標として活用
- ・一律の数値目標にすると、各学校の児童生徒の実態によって、目標の難易度に差が生じることとなるため、各学校において、適切な目標を設定することとした。

## 全国学力・学習状況調査における大阪市の数値目標

次年度めざすべき標準化得点（15位相当）

小学校	国語	算数・数学	合計
H31目標	97点	98点	195点
H30大阪市	81.8点	93.4点	175.2点

中学校	国語	算数・数学	合計
H31目標	97点	98点	195点
H30大阪市	93.4点	94.9点	188.3点

## 全国学力・学習状況調査に向けた各学校の数値目標の設定について

### 《目標値算出の根拠》

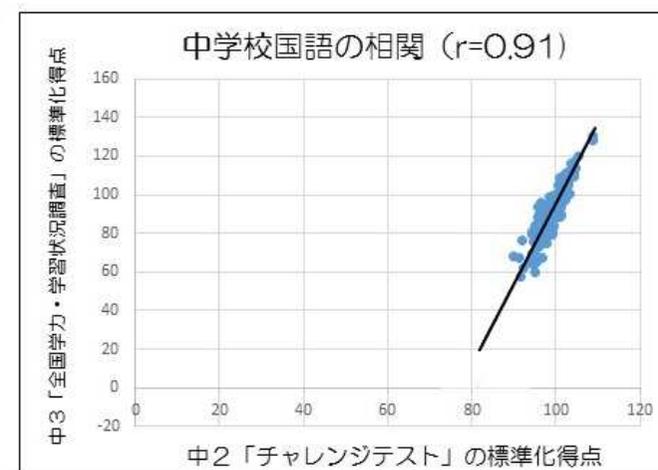
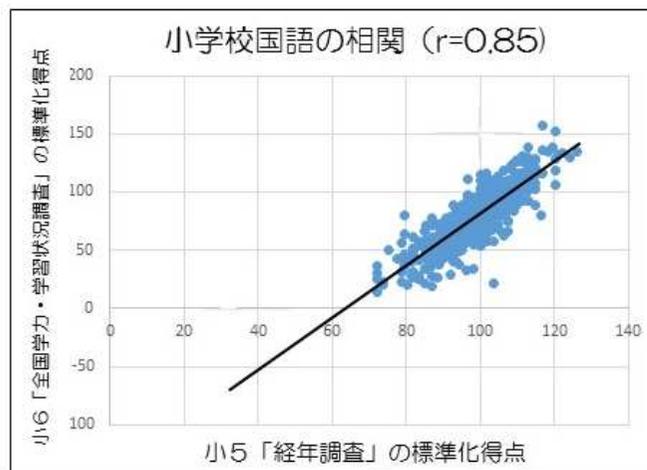
・前年度の「経年調査」及び「チャレンジテスト」の結果と「全国学力・学習状況調査」の結果との間にいずれの教科でも**正の相関**がみられた。

（過去2年の実績より）

相関係数 小学校：国語0.85 算数0.82  
中学校：国語0.91 数学0.96

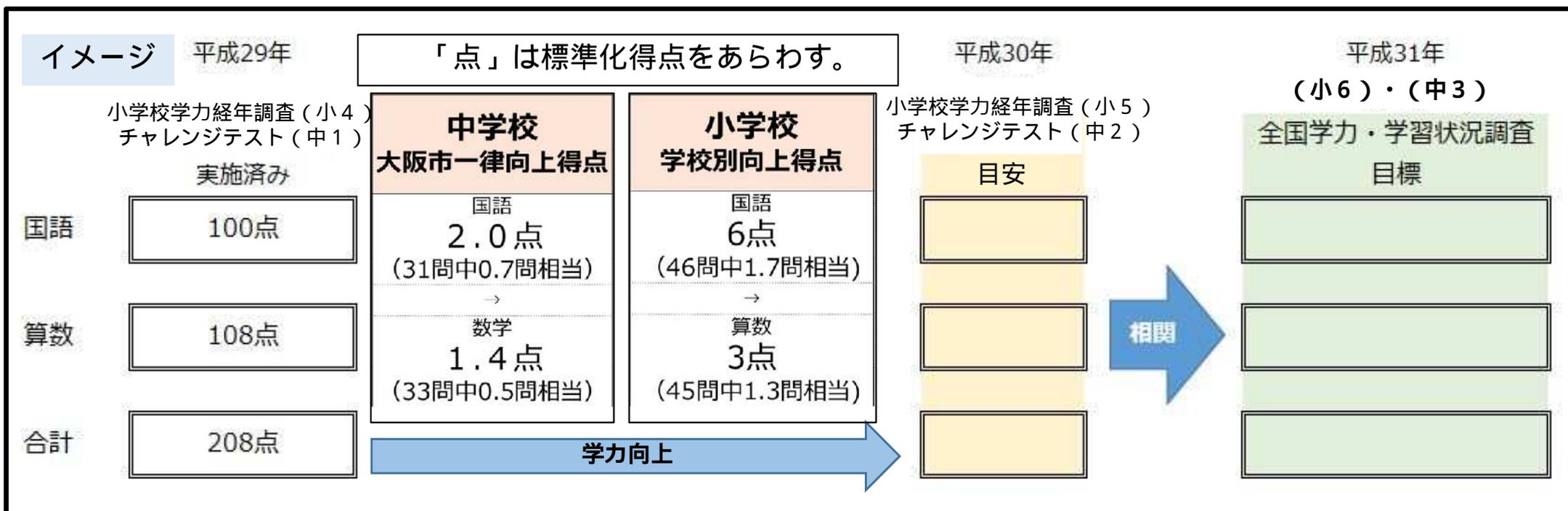


・回帰直線を算出することで、「経年調査」及び「チャレンジテスト」の結果から「全国学力・学習状況調査」の結果を推定することができると判断



## 具体的学校目標（案）

- 各学校の目標値は、H31年度「全国学力・学習状況調査」対象となる児童生徒（現小学校5年・中学校2年）のH29年度「小学校経年学力調査」及び「チャレンジテスト」の結果より算出
- （中学校）全校一律で向上させる得点を設定
- （小学校）児童一人一人の伸びしるを勘案し、学校ごとに向上させる得点を設定



## 課題

### 標準化得点を指標に活用することによる課題

- 標準偏差を活用しているため、下位層の底上げなどで平均が上がり、標準偏差の値が小さくなった場合、上位層では標準化得点が下がることがあり、全体の伸びを確認することが難しい。
- 小学校経年調査は、全国や府との比較ができない。

### 人事評価の評価指標として活用していくことへの課題

- 学校別目標を校長の業績評価において活用していく場合は、人事評価制度としての公平性や公正性が求められることとなる。
- 一律の数値目標では、目標の難易度で格差が生じることとなる。

## 対応の方向性

### □ 経年比較を可能とする学力調査の検討

児童生徒の指導に活用することを主眼に学力調査を行ってきたが、統計学的な視野も入れた検討が必要となる。

### □ 公平・公正な学力指標の検討

学力向上に向けた目安として、学校別目標を設定することは可能であるが、学力指標を人事評価・給与に反映する場合、公平・公正なものにする必要がある。

## 新学習指導要領で求められる力と学力テスト

- 平成29年3月に公示された学習指導要領（以下、「新学習指導要領」という）は、教科等の目標や内容について、生きて働く「知識・技能」、未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」、学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力・人間性等」という三つの柱に基づいて再整理されており、これらの資質・能力の三つの柱は相互に関係し合いながら育成されるものという考え方に立っている。その実現のためにも、語彙の理解、文章の構造的な把握、読解力、計算力や数学的な思考力など基盤的学力の定着を重視した新学習指導要領の確実な習得が求められる。
- 全国学力・学習状況調査（小6・中3）、学びの基礎診断（高1・2）、大学入学共通テスト（高3）、でもこれらの力を重視している。

## 平成30年度 各種調査のスケジュールおよび取組

時期		学校	教育委員会
2 学期	8月	平成30年度「全国学力・学習状況調査」結果返却	学力向上 通信の発行 (1月に2回程度)
	9月	6日「チャレンジテスト(3年)」実施	
	10月	4日「中学校統一テスト(3年)」実施	
	11月	実施 ← 「振り返りプリント1」の配付	
3 学期	12月	5・6・7日「小学校学力経年調査」実施	
	1月	10日「チャレンジテスト(1・2年)」実施	
	2月	実施 ← 「振り返りプリント2」の配付	
	3月	実施 ← 「振り返りプリント3」の配付	
	4月	18日 平成31年度「全国学力・学習調査」実施	

学びに向かう力、  
人間性等

知識及び技能

思考力、判断力、  
表現力等

【基盤的学力】

語彙の理解、文章の構造的な把握、  
読解力、計算力や数学的な思考力

確認

- 全国学力・学習状況調査
- 学びの基礎診断
- 大学入学共通テスト
- 大阪市「小学校学力経年調査」
- 大阪府「チャレンジテスト」